

# LNGが最大輸入品目に

## ますます増す低廉・安定的なLNG調達の重要性

計量分析ユニット 需給分析・予測グループ 研究主幹 | 柳澤 明

### 要旨

貿易収支が改善傾向にある。2015年1-2月の貿易赤字は、前年同期比56%減の1.6兆円と、1-2月としては2012年以来3年ぶりの水準にまで縮小した。

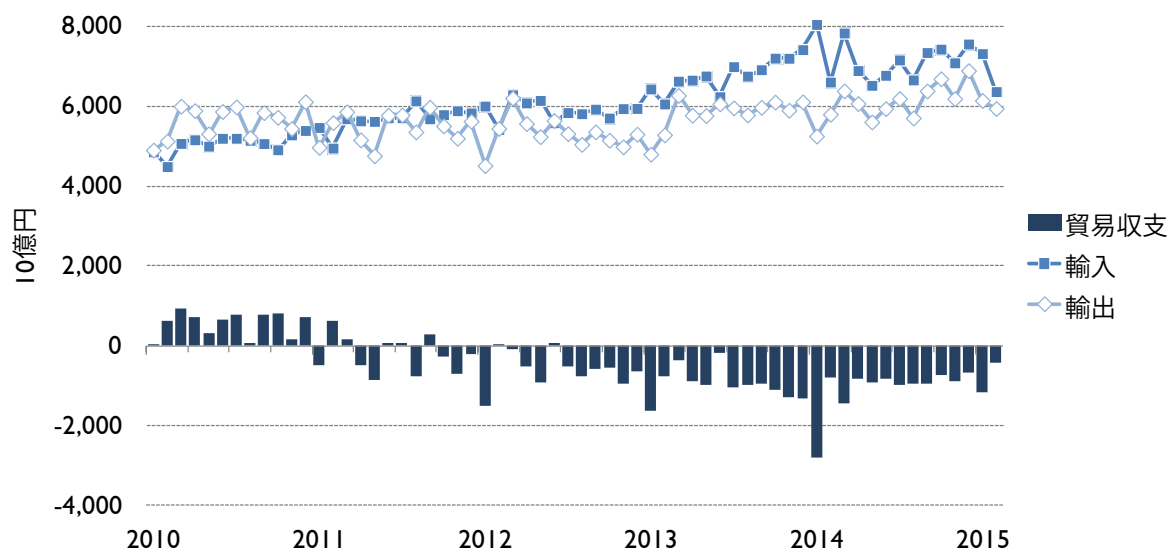
そうした中、2015年2月の液化天然ガス(LNG)の輸入は、価格が前年同月比\$172/t下落したものの、数量は同22万t増加し、金額は6,337億円となった。一方で、原油の輸入は、数量が1,546万kLまで落ち込み、価格は\$49/bblとおおよそ6年ぶりの水準まで下落したことで、金額は5,678億円まで急減した。その結果、LNGが原油を上回り、最大の輸入品目となった。

この先、LNG輸入価格は、急落した原油価格をたどり低下することになる。そのため、LNGの最大輸入品目としての地位は、このまま定着するものではないと考えられる。しかし、LNG火力発電への依存が短期のうちには解消しそうにないこと、経済の回復に伴い都市ガス用消費が堅調に推移していることから、高水準の輸入量を維持する蓋然性が高い。そうした潮流を鑑みれば、LNGの低廉・安定的な調達に対する要請は、重みをますます増してゆくことになる。

### 改善する貿易収支

貿易収支が改善傾向を示している(図1)。輸出は、長く待たれていた円安による促進効果が顕在化しつつあることで、2015年1-2月<sup>1)</sup>は対前年同期比9.4%増の12.1兆円となった。対して輸入は、2014年後半からの原油価格の下落と円安による輸入品の価格競争力低下で同6.6%減の13.7兆円となった。貿易赤字は、同55.6%減の1.6兆円と、1-2月としては2012年以来3年ぶりの水準にまで縮小した。

図1 | 輸出入額・貿易収支



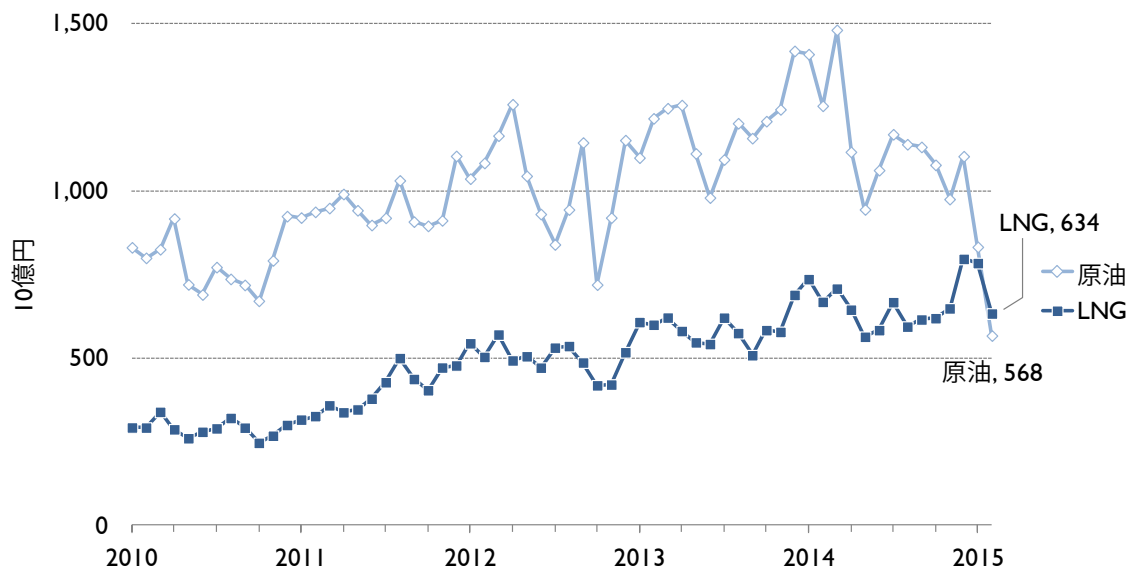
出所: 財務省「貿易統計」

<sup>1)</sup> 1、2月の貿易額は、旧正月がいずれの月になるかによって大きく変化するため、1-2月累積で示した。

## 最大輸入品目となったLNG

そうした中、2015年2月の液化天然ガス(LNG)は、輸入価格が前年同月比\$172/t安の\$695/tへと下落したものの、輸入量は同22万t増加し773万tとなった。そのため、輸入額は同5%減にとどまる6,337億円となった(図2)。一方、原油は、冬季の需要期にもかかわらず輸入量が1,546万klまで落ち込み、価格は\$49/bblとおよそ6年ぶりの水準まで下落した。そのため、輸入額は同55%減の5,678億円まで急減した。その結果、統計が比較可能な1988年1月以降で初めて、LNGの輸入額が原油を上回った。

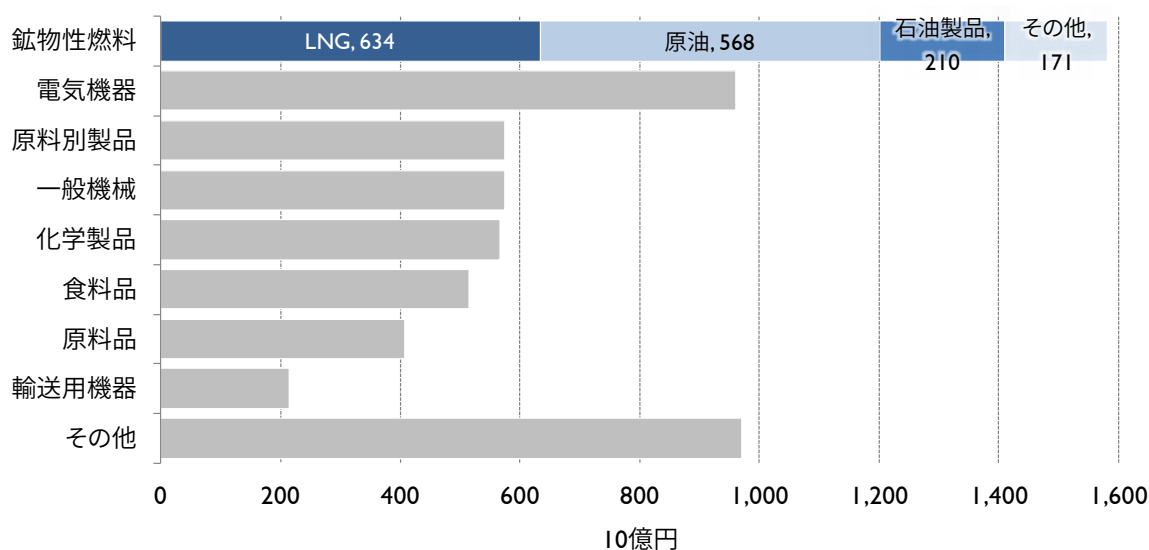
図2 | LNG、原油輸入額



出所: 財務省「貿易統計」

また、これにより、LNGはわが国最大の輸入品目となった(図3)—これまでその地位を占めていたのは原油である。LNG輸入額は、5年前には原油の3分の1強に過ぎなかったことから、いかに急速に増大してきたかがい知れる。

図3 | 商品別輸入額[2015年2月]

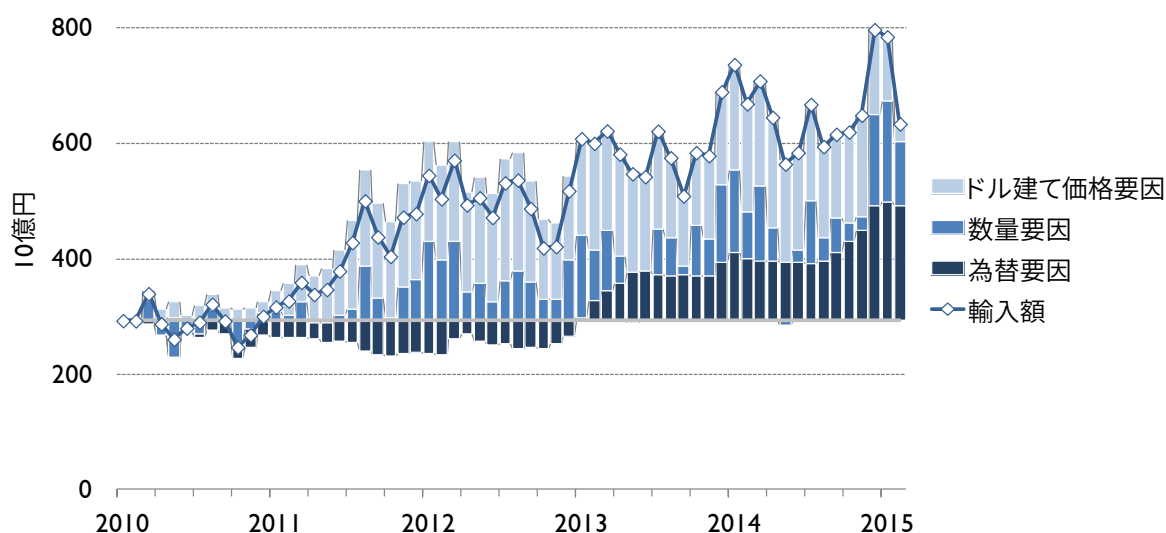


出所: 財務省「貿易統計」

## 輸入額増加の主因は、輸入量増大と円安に交代

4年で倍増したLNG輸入額の変化を定量的に整理するために、数量要因、ドル建て価格要因、為替要因の3つに要因分解分析<sup>2</sup>を行った(図4)。数量要因は、LNG火力発電の多用が進んだことにより、東日本大震災以降一貫して増加要因となっている。ドル建て価格要因は、これまで数量要因ともども輸入額の大きな押し上げ要因であった。しかし、2014年後半から原油価格が急落したことでLNG価格も2015年に入って下落<sup>3</sup>、足元ではその寄与を縮小させ始めている。為替要因は、「アベノミクス」の一環である日本銀行による異次元金融緩和と米国の金融緩和からの転換に伴う円の減価により、2013年から増加寄与に転じ、現在では最大の要因となっている。2015年2月のLNG輸入額は2010年1月比で3,409億円増大しているが、そのうち各要因による増加寄与は、数量要因が1,121億円、ドル建て価格要因が303億円、為替要因が1,984億円である。

図4 | LNG輸入額増減要因分解[2010年1月比]



注: 対前月比をLogarithmic Mean Divisia Index法により要因分解したものを累積して算出  
出所: 財務省「貿易統計」より算出

2015年央までに見込まれる方向性としては、数量要因がこれ以上の顕著な輸入額増加要因となることはなさそうである。ドル建て価格要因は、LNG価格が急落した原油価格をたどる形で下落することになるため、減少に寄与する。為替要因は、米国の利上げ観測が強まれば円安・ドル高展開となり、LNG輸入額をさらに押し上げることになる。総合して評価すれば、ドル建て価格要因の寄与が効き、LNGの最大輸入品目としての地位はこのまま定着するものではないと考えられる。

## 増してゆくLNGの低廉・安定的な調達の重要性

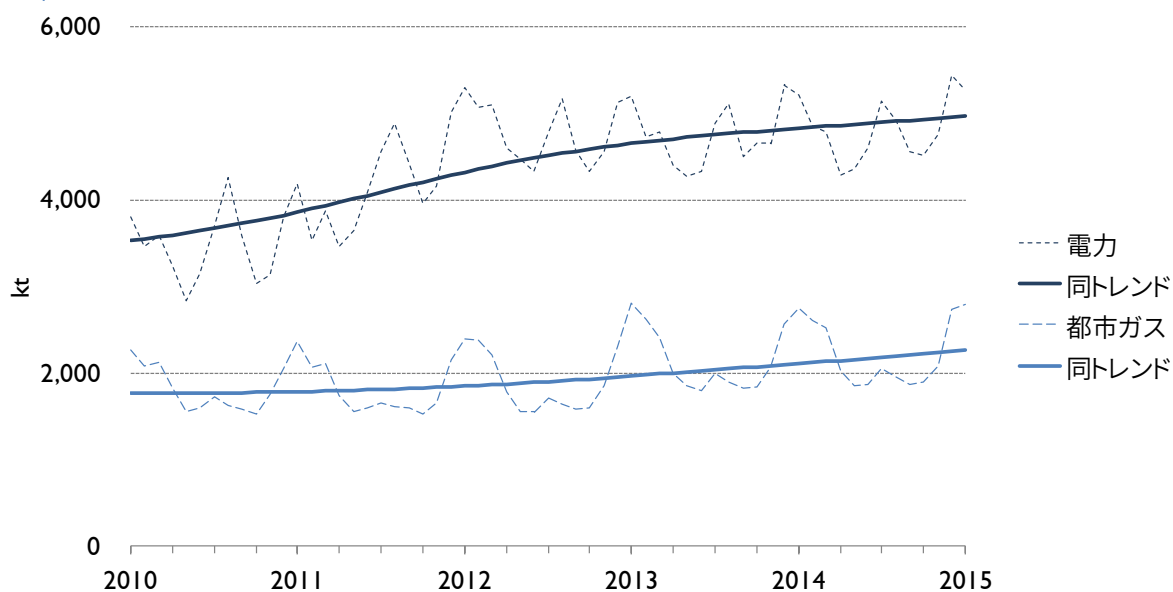
しかしながら、原油は、自動車燃費の改善や東日本大震災後に急増した石油火力発電が抑制に転じていることなどから、輸入量が減少トレンドに帰ることが見込まれている。これに対し、LNGは、原子力発電所の再稼動が進んでおらずLNG火力発電への依存が短期のうちには解消しそうにないこと、経済の回復に伴い都市ガス用消費が堅調に推移していることから、高水準の輸入量を維持する蓋然

<sup>2</sup> 2010年1月以降の毎月の対前月変動を対象にLogarithmic Mean Divisia Index法により要因分解したものを累積して算出。

<sup>3</sup> LNG輸入価格は、原油輸入価格をおよそ3か月遅れで反映する。

性が高い(図5)。そうした潮流を鑑みれば、LNGの低廉・安定的な調達に対する要請は、重みをますます増してゆくことになる。

図5 | LNG消費



注: トrendはHodrick-Prescott filterにより算出

出所: 経済産業省「電力調査統計」、同「ガス事業統計」

お問い合わせ: [report@tky.iej.or.jp](mailto:report@tky.iej.or.jp)